

2024年度 文学部聴講生

講義要項

(東洋史学専攻抜粋)

中央大学 文学部

2024.4 - 2025.3

科目名： 東洋史概説(1)A(東洋史学)

担当教員： 石野 智大

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 水5

配当年次： 1年次配当

科目ナンバー： LE-OH1-G101

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:00:52 更新者： AD1408

更新日時： 2023-12-26 11:38:10

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

本授業では、時間的・空間的な広がりを持つ中国の政治と社会について、周辺地域との関係も視野に入れながら概観する。また、それらを通して、受講生各自が中国史を含むユーラシア東方地域の歴史に関する基本的な知識を習得することを目的とする。

長期にわたる中国の歴史を理解するには、その大きな流れを捉えることが重要な意味を持つ。そのため、本授業でもその部分に力点をおいて講義を進める。とくに本授業では、人びとの生活環境の違い、文明の多元性、領域統治の方法、人的結合のあり方、統一王朝の形成・崩壊過程、諸民族の躍動と自立化、大規模な環境変化の影響、対内・対外政策の連動性、宗教・文化と政治とのかわりなど、歴史を読み解く様々な視点を学びつつ、中国文明の誕生から清末までの前近代中国の歴史的推移を追ってみたい。

**科目目的**

中国史を含むユーラシア東方地域の歴史の大きな流れを把握し、それを通して歴史を読み解くための多様な視点を学ぶ。

**到達目標**

- (1) 中国史の大きな流れを理解し、それに関する基本的な知識を習得する。
- (2) 上記の点を踏まえ、中国史の推移を周辺の諸民族や諸国家との関わりも含めて説明できる。

**授業計画と内容**

- 第1回：中国史を読み解く視点
- 第2回：中国文明の誕生
- 第3回：初期王朝の形成
- 第4回：春秋戦国時代の政治と文化
- 第5回：秦漢統一帝国の成立と崩壊 (1) 秦～前漢前半
- 第6回：秦漢統一帝国の成立と崩壊 (2) 前漢後半～後漢
- 第7回：魏晋南北朝時代の政治と諸民族の動向
- 第8回：隋唐王朝の形成と変容 (1) 隋
- 第9回：隋唐王朝の形成と変容 (2) 唐
- 第10回：五代・北宋の展開
- 第11回：南宋時代の政治と文化
- 第12回：モンゴル帝国と元朝の中国支配
- 第13回：明代の国内政治と対外政策
- 第14回：清代の政治的展開と皇帝制度の終焉

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

履修前の事前学習は、高校世界史教科書の中国史関連部分を一読しておくとうよいと思います。

授業開始後は、シラバス揭示の「参考文献」を積極的に読まれることを希望します。

また、授業で学習した内容は毎回復習し、理解を定着させることが大切です。それらを通して、中国史そしてユーラシア東方地域の歴史の流れを理解するように心がけてください。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%	
期末試験	80%	(1) 問題を正確に理解し、十分な回答ができているか (2) 自らの言葉で文章が論理的にまとめられているか
レポート	0%	
平常点	20%	授業への取り組み、リアクションペーパーなど
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

[テキスト]  
指定しません。授業時に適宜プリントを配布します。

[参考文献]  
津田資久・井ノ口哲也編『教養の中国史』(ミネルヴァ書房、2018年)  
富谷至・森田憲司編『概説中国史』上・下(昭和堂、2016年)  
岸本美緒『中国の歴史』(筑摩書房、2015年)

より専門的な理解を深めるには、以下の概説書をおすすめします。  
『世界歴史大系 中国史』1~5(山川出版社、1997年~2003年)  
『中国の歴史』全12巻(講談社、2004年~2005年、講談社学術文庫で文庫版あり)

### オフィスアワー

### その他特記事項

質問・相談は随時対応しますので、授業後にお願いします。

### 参考URL



科目名： 東洋史概説(1)A(他専攻)

担当教員： 前島 佳孝

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 月2

配当年次： 1年次配当

科目ナンバー： LE-OH1-G101

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:00:52 更新者： AB5376

更新日時： 2024-01-04 22:52:29

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

東洋史学はおおよそアジア地域の歴史を扱うが、当該地域は極めて広大かつ多様で、長い歴史を有しているため、一講座で全てを包括することは困難である。そこで本講座では、中国を中心とする東アジアを軸として、周辺地域に目配りするかたちをとり、通年で古代文明の成立から現代までを概観する。このうち前期・東洋史概説Aでは先史時代から5世紀までを取り上げ、主に東アジアの中心を占める中国世界の形成や東・北アジアにおける地域ごとの文化圏の成立について講義する。

**科目目的**

中国をはじめとして東アジアの影響力が增大している現在、東アジア地域の歴史を知ることには社会的に大きな意義があり、翻って東アジアに含まれる日本の立ち位置を確認することにも繋がる。本講は「概説」として、古代を中心に東アジアおよびその周辺の歴史の基礎となる知識を習得し、あわせて普遍的な歴史事象の見方を自身の専門とする研究に応用する能力を養うことを目的とする。

**到達目標**

- ◇東アジア古代の政治史の展開を説明できるようになること。
- ◇古代における「中国」という地域の形成を説明できるようになること。
- ◇社会の変化のありかたを説明できるようになること。

**授業計画と内容**

1. ガイダンス
2. 「東洋」と「東洋史学」
3. 伝説と歴史と考古学
4. 古代文明の形成から都市国家連合体へ
5. 殷と周
6. 春秋戦国時代の社会変革
7. 秦漢帝国と統一中国の形成
8. 中国古代の地域社会
9. 外戚と宦官
10. 北アジア遊牧帝国の興衰
11. 王朝交替の様式化
12. 皇帝と宗室
13. 東・北アジアにおける民族の移動
14. 総括・まとめ：東アジア世界の形成

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

授業に先だち、上記の参考文献や、最低限、高等学校の世界史教科書の当該箇所を目を通して、概要を把握しておくこと。講義後には参考文献を参照しながら講義内容の要旨をまとめること。講義で述べた事項を各自の専門とする時代や地域、テーマと比較して考えてみることも有益である。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験	80%	論述形式で、事実関係・因果関係の正確さ、記述の論理性等を評価する。
レポート	0%	
平常点	20%	受講態度、授業進行への貢献等を評価する。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

出席率が60%に満たない者は、試験の結果の如何に関わらず不合格とする。

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)  
 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
 ディスカッション、ディベート  
 グループワーク  
 プレゼンテーション  
 実習、フィールドワーク  
 その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
 タブレット端末  
 その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト：manabaを介して講義内容を文章と図表にまとめた資料をpdf形式で配信する。  
 参考文献：尾形勇・岸本美緒編『世界各国史 中国史』（東京：山川出版社，1998年，ISBN:4634413302）、小松久男編『世界各国史 中央ユーラシア史』（東京：山川出版社，2000年，ISBN:463441340X）、松丸道雄等編『世界歴史大系 中国史』各巻（東京：山川出版社，1996年～）。また、授業中にも適宜紹介する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

**科目名： 東洋史概説(1)B(東洋史学)****担当教員： 鈴木 恵美**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：水5

配当年次：1年次配当

科目ナンバー：LE-OH1-G102

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:53 更新者：AA2229

更新日時：2024-01-08 22:51:57

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

イスラームが誕生した7世紀以降の西アジア（中東）地域の歴史の概説を学ぶ。この地域は古代文明から積み重なる歴史を持ち、東西そして南北の交流が盛んな、様々な民族、宗教が共生する多様性に満ちた地域である。また、十字軍とモンゴルという東西からの侵略、様々な王朝の栄枯盛衰など、ダイナミズムに満ちている。この授業では、西洋や東洋とは全く異なる西アジア地域におけるイスラーム史の魅力を知ること、世界史を学ぶことの楽しさを知る。授業は、イスラーム（第1回と第2回）、概説（第3回から第6回）、テーマごとの各論（第7回から第13回）という三部構成で実施する。

**科目目的**

複雑で難しいと思われるがちな西アジア地域の歴史を学ぶことの面白さを知ること。またこの地域の歴史を、世界史全体のなかで理解すること。

**到達目標**

イスラーム史を学ぶことで、他の地域との違いと共通点を理解すること。授業で学ぶ歴史的知識と、現代の国際社会を結び付けてとらえること。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス、イスラーム史の見方
- 第2回 イスラームの誕生と支配地域の拡大
- 第3回 アラブによる支配
- 第4回 非アラブによる支配
- 第5回 十字軍とモンゴル襲来
- 第6回 近世イスラーム国家
- 第7回 イスラーム法による統治と正当性
- 第8回 統治機構と土地制度
- 第9回 ワクフとイスラーム都市
- 第10回 交易路の拡大と変化
- 第11回 オスマン朝の都市文化
- 第12回 西アジア地域における食の文化史
- 第13回 イスラーム史のなかのユダヤ人
- 第14回 イスラーム史の総括

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

必ず授業の復習をすること。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)**

- 中間試験 0%
- 期末試験 70% イスラーム文明が歴史的にどのように展開してきたか、その理解度を評価する。
- レポート 0%

平常点 30% 質問やコメントペーパーの提出など、授業に対する積極性。  
その他 0%

#### 成績評価の方法・基準(備考)

#### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

#### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

#### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

#### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

テキストは無し。参考文献は、必要な時には講義のなかで紹介する。  
資料を準備する。

#### オフィスアワー

#### その他特記事項

#### 参考URL

#### 備考



科目名：東洋史概説(1)B(他専攻)

担当教員：前島 佳孝

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：月2

配当年次：1年次配当

科目ナンバー：LE-OH1-G102

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:53 更新者：AB5376

更新日時：2024-01-04 23:00:01

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

東洋史学はおおよそアジア地域の歴史を扱うが、当該地域は極めて広大かつ多様で、長い歴史を有しているため、一講座で全てを包括することは困難である。そこで本講座では、中国を中心とする東アジアを軸として、周辺地域に目配りするかたちを取り、通年で古代文明の成立から現代までを概観する。このうち後期・東洋史概説Bでは5世紀以降を取り上げ、アジアの再構成、及び国際関係を中心に講義する。

**科目目的**

中国をはじめとして東アジアの影響力が増大している現在、東アジア地域の歴史を知ることには社会的に大きな意義があり、翻って東アジアに含まれる日本の立ち位置を確認することにも繋がる。本講は「概説」として、中世以降の東アジア及びその周辺の歴史の基礎となる知識を習得し、あわせて普遍的な歴史事象の見方を自身の専門とする研究に応用する能力を養うことを目的とする。

**到達目標**

- ◇東アジア中世以降の政治史の展開を説明できるようになること。
- ◇中国と周辺地域との関わりについて説明できるようになること。

**授業計画と内容**

1. ガイダンス
2. 暦の話(古代～現代)：太陰太陽暦とイスラム暦
3. 分裂時期中国の国際関係
4. 胡漢の融合
5. 隋唐世界帝国とその淵源
6. 東アジア都城通史(古代～現代)
7. ソグド人の活動
8. 日唐関係史の一齣
9. 唐宋変革
10. 科挙通史(6～20世紀)
11. モンゴル帝国とその末裔(12～20世紀)
12. 漢地と藩部
13. トルクスタンの成立と2つのウイグル(8～20世紀)
14. 総括・まとめ：東アジア世界の変容と周辺地域との関係

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

授業に先立ち、上記の参考文献や、最低限、高等学校の世界史教科書の当該箇所を目を通して、概要を把握しておくこと。講義後には参考文献を参照しながら講義内容を要旨をまとめること。講義で述べた事項を各自の専門とする時代や地域、テーマと比較して考えてみることも有益である。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験	80%	論述形式で、事実関係・因果関係の正確さ、記述の論理性等を評価する。
レポート	0%	
平常点	20%	受講態度、授業進行への貢献等を評価する。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

出席率が60%に満たない者は、試験の結果の如何に関わらず不合格とする。

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト：manabaを介して講義内容を文章と図表にまとめた資料をpdf形式で配信する。

参考文献：尾形勇・岸本美緒編『世界各国史 中国史』（東京：山川出版社，1998年，ISBN:4634413302）、小松久男編『世界各国史 中央ユーラシア史』（東京：山川出版社，2000年，ISBN:463441340X）、松丸道雄等編『世界歴史大系 中国史』各巻（東京：山川出版社，1996年～）。また、授業中にも適宜紹介する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名：東洋史概説(2)A

担当教員：新免 康

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：火1

配当年次：1年次配当

科目ナンバー：LE-OH1-G103

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:54 更新者：AA0014

更新日時：2024-01-09 18:57:06

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

古代から現代へと至る中央ユーラシアの歴史の基本的な流れを扱います。本授業で扱う中央ユーラシアの範囲については、西はヴォルガ・ウラル地域、東はモンゴル高原、北は南シベリア、南はチベット、西南はイラン北部、という領域を設定します。本授業において特に重視する具体的な事象としては、民族の移動、遊牧民とオアシスの定住民の関係、宗教や言語に関連する文化交流、いわゆる「シルクロード」を通じた交易活動があり、これらの諸事象に注目したうえで、中央ユーラシアにおいて活動した、あるいは現代においてもなお活動を続けている諸民族の政治、社会、文化の変容についても理解を深めていきます。

**科目目的**

この科目は、カリキュラム上の専攻科目群における必修科目として位置づけられており、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で示されている「幅広い教養」を身に付け、また「専門的学識」を修得することを目的としています。この科目での学習を通じて、古代から現代へと至る中央ユーラシアの歴史の流れについて、基本的な知識を修得するとともに、ユーラシアにおける当該地域の位置づけや歴史的役割を視野に置きつつ、その歴史展開のあり方と具体的な諸事象を理解するための視点を養います。また、これらの知識と視点を修得することを通じて、現代の中央ユーラシアにおける諸民族が置かれた具体的な状況（政治、経済、社会、文化など）に関する理解を深めます。

**到達目標**

この科目では、以下を到達目標とします。

- ・中央ユーラシアの歴史の基本的な流れについて、他者に説明できるようになること。
- ・古代から現代までの中央ユーラシアにおける歴史の状況を、各時期ごとに具体的な事象を挙げて、他者に説明できるようになること。
- ・歴史的な視点および知識をもとに、現代の中央ユーラシアの状況について、広い視野を持って理解できるようになること。

**授業計画と内容**

基本的に講義形式で授業を行います。

- 第1回 ガイダンス：中央ユーラシアの地域の特徴
- 第2回 中央ユーラシア史の展開：草原とオアシス、シルクロード
- 第3回 スキタイと匈奴：遊牧民とその政権
- 第4回 テュルクの展開：テュルク系遊牧諸部族の活動および西方への移動
- 第5回 ソグディアナ地域：ソグド人の住む地域と彼らの商業活動
- 第6回 タリム盆地周縁オアシス地域：オアシスの諸国と周辺勢力
- 第7回 イスラーム化：中央アジアのイスラーム受容と社会・文化の変化
- 第8回 テュルク化：テュルク系遊牧民の定住化とオアシス地域のテュルク化
- 第9回 モンゴル帝国：チンギス・ハーンとその後裔たち
- 第10回 ティムール帝国：ティムールとその後裔たち
- 第11回 清朝の進出と統治：モンゴル、チベット、新疆
- 第12回 ロシア帝国の進出と統治：中央アジア
- 第13回 近現代の中央ユーラシア：ナショナリズム、 Kommunismus
- 第14回 総括・まとめ：中央ユーラシアの歴史と現代

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

- ・特定のテキストは使用しませんが、授業中に紹介する参考文献に目を通すことを推奨します。
- ・毎回の授業において、授業内容に関する課題を出すので、400字程度の小レポートを提出してください。小レポートの回収は、manabaのレポート機能によって行なう予定です。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	30%	学期末の課題レポート（1800字以上2200字以内）の内容について評価します。設定された文字数の中で、具体的な事象を他者に説明できることを重視するので、1800字を下回る場合、また2200字を上回る場合も同様に減点します。
平常点	70%	授業への参加状況、毎回の小レポートの提出状況および内容について評価します。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

毎回の授業においてResponアプリのカード（出席のみ）を使って、出席を確認する予定です。各授業ごとに出席を確認できた学生の提出した小レポートを評価の対象とします。正当な理由なく欠席した場合は、その欠席した回の小レポートを提出することはできません。小レポートを正当な理由なく5回以上提出しなかった者、学期末の課題レポートを提出しなかった者は評価の対象とせず、E判定とします。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

- ・毎回の授業において、授業内容に関する課題を出します。課題に対して提出された小レポートの内容に応じて、講評と解説を行います。
- ・学期末の課題レポートの内容に応じて、講評と解説を掲示します。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

<テキスト>  
テキストは使用しません。各回の授業内容に関する資料を提示します。

<参考文献>  
参考文献については授業時にも紹介しますが、本授業における主な参考文献としては以下のものがあります。  
・小松久男編『中央ユーラシア史』山川出版社、2000年（新版世界各国史4）ISBN：4-634-41340-X  
・小松久男、梅村坦、宇山智彦、帯谷知可、堀川徹編『中央ユーラシアを知る事典』平凡社、2005年 ISBN：4-582-12636-7

- ・小松久男、荒川正晴、岡洋樹編『中央ユーラシア史研究入門』山川出版社、2018年 ISBN：978-4-634-64087-0
- ・野田仁、小松久男編著『近代中央ユーラシアの眺望』山川出版社、2019年 ISBN：978-4-634-67249-9

### オフィスアワー

### その他特記事項

毎回の授業において出す課題の小レポートについて、学生の皆さんの負担に関わる事情を考慮する必要性が生じた場合は、課題字数の調整などの対応を行ないます。

### 参考URL

### 備考

---

科目名：東洋史概説(2)B

担当教員：高橋 宏明

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：火1

配当年次：1年次配当

科目ナンバー：LE-OH1-G104

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:55 更新者：AA1729

更新日時：2023-11-29 15:01:06

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

本授業では、東アジア・東南アジアからインド洋・アラビア半島・アフリカにかけての海域世界の歴史的展開に焦点をあてつつ、国家史の枠組みを越えた東西交流の歴史と物質文明、内陸地域との交易ネットワークの形成と発展、海域史の特徴等について学習します。

**科目目的**

本科目の学習を通じて、東アジア・東南アジアからインド洋・アラビア半島・アフリカにかけての海域世界の歴史と文化に対する理解を深めると同時に、当該地域の歴史、社会、文化についての基礎的な知識や幅広い教養を修得することを目的としています。

**到達目標**

本科目では、東アジア・東南アジアからインド洋・アラビア半島・アフリカにかけての海域世界の歴史や文化について理解し、東西交流の歴史的な意味や意義、海域世界の交流史や宗教の展開などについて、他者に説明できるようになることを到達目標とします。

**授業計画と内容**

- 第1回 はじめにー海域世界と東西交流の歴史ー
- 第2回 紀元前後の「海のシルクロード」
- 第3回 古代東南アジアにおける「港市」の成立と国家形成
- 第4回 8～9世紀におけるアジア海上交易ネットワークの発展
- 第5回 10～12世紀のイスラーム世界の拡大
- 第6回 イスラーム=ネットワークの形成と海上交易の活性化
- 第7回 明の国際秩序とアジア海域ー鄭和の遠征、銀の流通ー
- 第8回 15世紀のアジア交易ーインド洋交易、アラビア商人、マラッカ王国ー
- 第9回 大航海時代の開始①インド洋貿易ネットワークの発展
- 第10回 大航海時代の開始②ヨーロッパ人のアジア進出
- 第11回 16世紀近代世界システムの成立①ヨーロッパ人の世界「進出」
- 第12回 16世紀近代世界システムの成立②アジア地域とヨーロッパ人の活動
- 第13回 17～18世紀の東南アジア世界への中国人の進出
- 第14回 まとめと総括

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- |      |     |  |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0%  |  |
| 期末試験 | 40% | 海域世界の歴史と文化についての基礎知識を理解した上で、授業内容に関する設問に対して説明できるかどうかを評価します。              |
| レポート | 30% | レポートの基本構成、字数、形式、参考文献等の基本的な条件を理解した上で、授業内容に関する課題に対してレポート作成できるかどうかを評価します。 |

平常点	30%	リアクションペーパーの内容、受講態度（意見の表明、他の学生と協調して学ぶ態度・姿勢等）を基準とします。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件：出席率が70%に満たない者、課題を提出しない者等については、E判定とします。リアクションペーパーの内容が中身のなかった場合、その回の平常点が大きく減点されますので留意する必要があります。また、部活動や就職活動等で出席できない場合でも、「特別扱い」はしないので注意してください。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- ✓ 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

1992年4月～1995年3月にかけて外務省・在カンボジア日本大使館に勤務し、広報政策や文化協力、国費留学生事業を担当しました。カンボジア政府や国際機関（国連カンボジア暫定統治機構、ユネスコ、その他）との折衝等の外交活動に従事し、特にアンコール遺跡国際調整委員会（ICC）の設立・運営に直接関与した実務経験を持っています。

### 実務経験に関連する授業内容

外交関連の文書等の作成に関与した経験を活かし、同書類の特徴や性質についての解説・講義を実施します。

### テキスト・参考文献等

「テキスト」は、特に使用しません。毎回、授業の際に関連資料を配布します。

- 「参考文献」として、以下をあげておきますので、適宜参照してください。
- ・青木康征『海の道と東西の出会い』山川出版社(世界史リブレット)、1998年。
  - ・桐山昇・栗原浩英・根本敬『東南アジアの歴史—人・物・文化の交流史—』有斐閣、2003年。
  - ・羽田正編『東アジア海域に漕ぎだす1—海からみた歴史—』東京大学出版会、2013年。
  - ・桃木至朗編『海域アジア史研究入門』岩波書店、2008年。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

**科目名： 東アジア中世史****担当教員： 石野 智大**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：水5

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G202

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:59 更新者：AD1408

更新日時：2024-02-09 17:18:08

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

本授業では、7世紀前半から10世紀初頭の東部ユーラシア世界に大きな影響を与えた唐代の政治・経済・社会について、近年の研究成果を踏まえて概観する。

中国史のなかでも唐という時代は、古代日本とも関わりが深く、遣唐使やシルクロード、律令法などの用語を介して日本人に比較的馴染みのある時代である。しかし、唐代の政治・経済・社会の具体的な内容となると、一般的にあまり知られたものにはなっていない。隋唐時代の政治や社会は、どのように展開していったのか。また、当時の王朝支配を支えた法や制度とは、どのようなものであったか。さらに、それら諸制度のなかであって、居住地域や民族も異なる王朝治下の多様な人びとはどのように暮らしていたのか。

本授業では、唐代の政治史・法制史・社会経済史の問題を中心に据え、それらの内容を詳しく解説することで、「世界帝国」と称される唐の内面に迫ってみたい。とくに前半では政治の具体的な展開を追い、後半では社会の仕組みを取り上げる。

**科目目的**

古代日本を含む周辺諸国家の形成にも大きな影響を与えた唐王朝の政治や文化・社会のあり方を明らかにし、その時代的特徴を理解する。また、それらを通して、「東アジア中世史」に関わる教養と専門的学識を身に付けることを目的とする。

**到達目標**

- (1) 中国史ひいては東部ユーラシア史における唐代の位置づけと重要性を理解し、その時代の政治・法・社会などの諸相を説明できるようになる。
- (2) 上記の(1)を踏まえて、異なる時代や地域における王朝・国家の政治的展開や社会構造との比較検討を行うための視点を獲得する。

**授業計画と内容**

- 第1回：唐代史の位置づけをめぐって
- 第2回：唐代の政治と社会 (1) 唐室李氏と政権の樹立
- 第3回：唐代の政治と社会 (2) 高祖・太宗期の政治と社会
- 第4回：唐代の政治と社会 (3) 高宗期の政治と則天武後の登場
- 第5回：唐代の政治と社会 (4) 武周時代の幕開けと終焉
- 第6回：唐代の政治と社会 (5) 玄宗期の政治と社会
- 第7回：唐代の政治と社会 (6) 安史の乱とその後の社会
- 第8回：唐代の法制度と社会 (1) 法のあり方と刑罰の仕組み
- 第9回：唐代の法制度と社会 (2) 治安維持組織と裁判機構
- 第10回：唐代の法制度と社会 (3) 諸獄と獄囚の管理
- 第11回：唐代の社会経済制度 (1) 村落組織・年齢区分・障害等級・身分制
- 第12回：唐代の社会経済制度 (2) 戸籍編成・度量衡・給田制
- 第13回：唐代の社会経済制度 (3) 税制とその周辺
- 第14回：本授業のまとめ

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

履修前の事前学習は求めませんが、授業開始後は下記の「参考書」を積極的に読まれることを希望します。最初は聞き慣れない歴史用語も多いと思いますので、各回の復習を通して理解を定着させてください。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。



・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

#### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	70%	(1) 問題を正確に理解し、十分な知識をもって回答ができているか (2) 自らの言葉で文章が論理的にまとめられているか
レポート	0%	
平常点	30%	授業への取り組み、リアクションペーパーなど
その他	0%	

#### 成績評価の方法・基準(備考)

#### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）  
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

#### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

#### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

#### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

教科書は設定しません。配布プリントと板書を主として、講義を進めます。  
ただし、以下の概説書二冊のうち、できれば一冊を参考書として準備いただくのが望ましい。  
布目潮風・栗原益男『隋唐帝国』（講談社学術文庫、講談社、1997年）  
気賀澤保規『絢爛たる世界帝国 隋唐時代』（講談社学術文庫、講談社、2020年）

その他の参考文献として、以下の二冊をおすすめします。  
森部豊『唐—東ユーラシアの大帝国—』（中公新書、中央公論新社、2023年）  
森安孝夫『シルクロードと唐帝国』（講談社学術文庫、講談社、2016年）

#### オフィスアワー

#### その他特記事項

個別の質問・相談は随時対応しますので、授業後にお願いします。

参考URL

備考

---

**科目名： 東アジア近世史****担当教員： 木村 拓**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限： 火1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G203

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:59 更新者：AA2344

更新日時：2024-01-07 09:45:14

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

朝鮮時代の前期（14世紀末～16世紀末）における朝鮮外交史の特徴について講義します。当該期は、中国史ではほぼ明代に相当し、日本史では大体室町時代中期から戦国時代に相当します。朝鮮の明に対する外交の特徴を押さえた上で、明と朝鮮との関係（冊封関係）が朝鮮の日本に対する外交に如何なる影響を与えたのかを考えることが最終的な目標となります。また、朝鮮外交史研究が抱えている諸問題についても併せて考えていきます。

**科目目的**

朝鮮外交史のあり方を見ていくことにより、近世の東アジア国際関係の特質に関して理解を深めます。

**到達目標**

- 以下の二点を大きな到達目標とします。
- ・朝鮮外交史の特質を理解する。
  - ・近世東アジア国際関係史に関する知見を深める。

**授業計画と内容**

1. ガイダンス
2. 序論1：朝鮮外交に関する研究史
3. 序論2：朝鮮外交と冊封体制
4. 朝鮮の対明外交1：冊封
5. 朝鮮の対明外交2：朝貢
6. 朝鮮の対明外交3：小中華意識と侯国的立場
7. 朝鮮の対日外交1：授職・授図書政策
8. 朝鮮の対日外交2：両国使節の往来
9. 朝鮮の対日外交3：「交隣」と「私交」
10. 朝鮮の対日外交4：外交文書
11. 朝鮮の対日外交5：偽使問題
12. 16世紀の東アジアと朝鮮
13. 壬辰戦争（秀吉の朝鮮侵略）と朝鮮
14. 総括

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- |      |   |
|------|---|
| 中間試験 | 0%  |
| 期末試験 | 0%  |
| レポート | 70% 期末レポートに当たります。課題の内容については、授業中に説明します。    |
| 平常点  | 30% 授業への参加状況、毎回の小レポートの提出状況および内容について評価します。 |

その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

期末レポート及び小レポートの詳細については、授業開始後、授業で説明します。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

毎回の授業において、授業内容に関する小レポート書いてもらいます。提出された小レポートの内容に応じて、授業中に講評と解説を行います。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

- <テキスト>  
テキストは使用しません。各回の授業内容に関するレジュメを配布します。
- <参考文献>
  - ・山内弘一『朝鮮からみた華夷思想』(山川出版社、2003年)
  - ・岡本隆司『世界のなかの日清韓関係史—交隣と属国、自主と独立—』(講談社、2008年)
  - ・木村拓『朝鮮王朝の侯国的立場と外交』(汲古書院、2021年)

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名：東アジア近現代史

担当教員：藤谷 浩悦

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：月1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G204

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:00:59 更新者：AB4883

更新日時：2023-11-18 10:52:43

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

本講義では、東アジア近代の歴史的事象について、中国と日本の文化の交流と摩擦というテーマに即しながら、髪型や衣装、身体観、病氣、都市、宗教などを中心に、多角的な観点から取り上げます。

**科目目的**

現在、大学生にはグローバル化の時代にあって、多角的な観点、幅広い教養、柔軟な思考が求められています。本講義では、学生が歴史を考える上で必要となる、基本的な考え方、知識の習得を目指します。この科目は教養科目になります。

**到達目標**

- この科目では、以下を到達目標とします。
- ・東アジアの近代に現れた、政治、社会、文化の諸現象について、この背景や原因、意義を含めて、他者に説明できるようになること。
  - ・これらの諸現象に関する課題を、多角的な視点から考察できるようにすること。
  - ・レポートの作成を通じて、自分の意見をまとめ、表現できるようにすること。

**授業計画と内容**

1. 授業の目的
2. 髪型の意味（辮髪、丁髷など）
3. 「身体加工」の歴史（コルセット、纏足、お歯黒、眉剃り）
4. 身体観の推移（風姿、体型）
5. 東アジアの衣装と身体（旗袍、着物、チマ・チョゴリ）
6. しぐさと言葉、身分
7. 身体観の推移（シャネルの意義、シンプルとは何か）
8. 中間総括
9. 香りの文化
10. 資生堂の戦略（憧れと広告）
11. 近代の香水の展開
12. チャイナ・ドレスの多様性（旗袍と唐服、漢服）
13. 20世紀の意識革命（モダン、シック、エレガンス、崩し、反抗）
14. 新たな価値の方向性（多様性とジェンダー）
15. 最終総括

manabaを用いて、毎回講義の内容のまとめを行っています。このまとめによって、次回の講義とのつながりが確認できるようになっています。また、講義内容の不明点についても、解説をしています。

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

毎回の授業で、資料と共に課題を提示します。この資料を読み込み、教員の指示した内容に沿って、レポートを書いていただきます。教員はこのレポートを読み、個々の学生に対して、コメントと共に今後の学習の方向性を示します。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	50%	レポートを読み、課題への取り組み方、達成度を評価します。
平常点	50%	レポートの提出状況の評価します。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

フィードバックは、manabaを用いて、各レポートに対する教員の感想、意見と共に、今後の学習の方向性、参考図書などを提示する形で行います。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

(テキスト) テキストは特になし。  
 (参考文献) 藤谷浩悦『井上雅二と秀の青春 (一八九四―一九〇三) ―明治時代のアジア主義と女子教育―』(集広舎、2019年)

### オフィスアワー

### その他特記事項

歴史だけでなく、文学、哲学など、人文系の学問を幅広く履修してください。

### 参考URL

### 備考

**科目名： 東南アジア史****担当教員： 高橋 宏明**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限： 火1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G205

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:01:00 更新者：AA1729

更新日時：2023-11-29 14:51:36

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

本授業では、東南アジア大陸部、特にカンボジアを中心としたインドシナ半島の近現代史を中心に、歴史的な流れとその捉え方や考え方、政治、社会、国際関係などについて、外交文書の読解と分析を通じて講義します。特に、1980年代以降のカンボジアの対外関係や国家再建過程を、主に日本やフランスの外交文書等を読み解きながら、授業を進めます。

**科目目的**

本科目の学習を通じて、学生が近現代のインドシナ世界の成り立ち・歴史・社会・文化に対する認識を深めるとともに、現代日本とインドシナ地域（特にタイ、カンボジア、ベトナム）の政治的・社会的・歴史的な関係について理解し、専門的な学識と幅広い教養を修得することを目的としています。

**到達目標**

本科目では、近現代のインドシナ地域（特にタイ、カンボジア、ベトナム）について、インドシナ難民問題の実態、国際社会の関与、日本外交の果たした役割などを理解し、他者に説明できるようになることを到達目標とします。

**授業計画と内容**

20世紀後半のカンボジア「問題」に着目し、政治情勢、社会状況、対外関係の実態について、外交文書を読解しながら多角的・複眼的に分析します。参考文献も適宜参照しながら、以下のテーマで講義を進めます。

- 第1回 ガイダンス～近現代のインドシナ地域を学ぶ意味について～
- 第2回 大航海時代のインドシナ半島と日本
- 第3回 フランス領インドシナ連邦（仏印）と日本の関係
- 第4回 カンボジアの「独立」と日本軍
- 第5回 ベトナム戦争からカンボジア「内戦」へ
- 第6回 クメール・ルーージュのジェノサイド（大虐殺）
- 第7回 カンボジア「問題」とタイ政府の対応
- 第8回 日本の関与①～インドシナ難民の発生と日本～
- 第9回 日本の関与②～外交文書の読解と分析～
- 第10回 日本の関与③～外交文書から見た「和平」への道のり～
- 第11回 日本の関与④～外交文書の中の政治アクター～
- 第12回 日本の関与⑤～1987～1990年の動向分析～
- 第13回 日本の関与⑥～冷戦終結と湾岸戦争とカンボジア「和平」～
- 第14回 まとめと総括～カンボジアPKOと日本～

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- |      |     |
|------|-----|
| 中間試験 | 0%  |
| 期末試験 | 30% |
- インドシナ世界の歴史と社会についての基礎知識を理解した上で、授業内容に関する設問に対して説明できるかどうかを評価します。

レポート	30%	レポートの基本構成、字数、形式、参考文献等の基本的な条件を理解した上で、授業内容に関する課題に対してレポート作成できるかどうかを評価します。
平常点	40%	授業への参加・貢献度（意見の表明、他の学生と議論したり協調して学ぶ姿勢など）、リアクションペーパーの提出、受講態度等の条件を基準とします。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件：出席率が70%に満たない者、課題を提出しない者等については、E判定とします。リアクションペーパーの内容が中身の無いものであった場合、その回の平常点が大きく減点されますので留意する必要があります。また、部活動や就職活動等で出席できない場合でも、「特別扱い」はしないので注意してください。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）

- ✓ 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

1992年4月～1995年3月にかけて外務省・在カンボジア日本大使館に勤務し、広報政策や文化協力、国費留学生事業を担当しました。カンボジア政府や国際機関（国連カンボジア暫定統治機構、ユネスコ、その他）との折衝等の外交活動に従事し、特にアンコール遺跡国際調整委員会（ICC）の設立・運営に直接関与した実務経験を持っています。

### 実務経験に関連する授業内容

外交関連の文書等の作成に関与した経験を活かし、同書類の特徴や性質についての解説・講義を実施します。

### テキスト・参考文献等

特定のテキストは用いません。  
参考文献として、以下を適宜参照して下さい。

- ・明石康『カンボジアPK0日記～1991年12月～1993年9月～』岩波書店、2017年。
- ・池田維『カンボジア和平への道～証言 日本外交試練の5年間～』都市出版、1996年。
- ・今川幸雄『カンボジアと日本』連合出版、2000年。
- ・河野雅治『和平交渉～対カンボジア外交の証言～』岩波書店、1999年。
- ・桃木至朗その他編著『東南アジアを知る事典』平凡社、2008年。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL





**科目名： 南アジア史**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：金2

**担当教員： 小倉 智史**

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G206

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:01:00 更新者：XEC402

更新日時：2024-01-06 16:30:34

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

本講義では、先史時代から現代までの南アジアの歴史を、特に諸宗教の歴史に注目しつつ、扱います。今日の南アジア（インド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、ブータン、モルディブ）には、ヒンドゥー教やイスラーム、ジャイナ教やシク教など、様々な宗教を奉じる人々が暮らしています。本講義では、それらの宗教が古代から近現代までの間、どのような発展を遂げてきたのかを講述します。特に、それぞれの宗教の歴史を個別に扱うのではなく、互いにどのように接触し、影響を及ぼしあってきたのかを詳しく見ていきます。

**科目目的**

南アジアにおける諸宗教の形成・到来と展開を長期的視野でとらえて、現代南アジアの多様性の淵源についての理解を深めることを目的とする。

**到達目標**

- ・南アジアの諸宗教の歴史や相互関係を理解するとともに、現代の宗教問題を歴史的地に立って理解するための視座を獲得する。
- ・南アジアの特徴の一つである社会・文化的多様性について理解を深める。

**授業計画と内容**

- 第1回 イントロダクション・インダス文明
- 第2回 インド・ヨーロッパ語族インド語派とヴェーダの宗教
- 第3回 十六大国時代の諸宗教の出現
- 第4回 マウリヤ朝・クシヤン朝と仏教
- 第5回 バラモン教からヴィシシュヌ教・シヴァ教へ
- 第6回 ムスリム勢力の到来
- 第7回 中世前期の諸宗教間の関係
- 第8回 中世後期・ムスリム政権下の諸宗教間の関係
- 第9回 ムガル帝国のコスモポリタニズムとシク教の展開
- 第10回 ヨーロッパ勢力とキリスト教の到来
- 第11回 英領期における宗教の「発見」
- 第12回 独立運動と宗教
- 第13回 インド・パキスタン・バングラデシュの分離独立
- 第14回 現代南アジアの宗教問題

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

毎回授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらいます。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験	0%	
レポート	60%	授業内容の理解を問う学期中の小レポート（二～三回を予定）と、応用力を問う期末レポートによって評価します。小レポートの割合、期末レポートの割合ともに30%です。
平常点	40%	授業への参加・貢献度、リアクション・ペーパーの記述内容を評価の基準とします。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストは指定しない。毎回配布するレジュメを利用する。

参考文献として以下の文献を挙げるので、適宜参照してください。  
 早島鏡正・高崎直道・原実・前田専学『インド思想史』東京大学出版会、1982年。  
 ラーマクリシュナ・G・バンダルカル『ヒンドゥー教』島岩・池田健太郎訳、せりか書房、1984年。  
 山崎元一他編『世界歴史体系 南アジア1 先史・古代』山川出版社、2007年。  
 小谷汪之編『世界歴史体系 南アジア2 中世・近世』山川出版社、2007年。  
 辛島昇編『世界歴史体系 南アジア3 南インド』山川出版社、2007年。  
 長崎暢子編『世界歴史体系 南アジア4 近代・現代』山川出版社、2017年。  
 東長靖『イスラームのとらえ方（世界史リブレット）』山川出版社、1996年。  
 佐藤次高『イスラーム 知の営み』山川出版社、2009年。  
 山根聡『4億の少数派 南アジアのイスラーム』山川出版社、2011年。  
 外川昌彦『宗教に抗する聖者』世界思想社、2009年。  
 バーバラ・D・メトカーフ/トーマス・R・メトカーフ『ケンブリッジ版各国世界史 インドの歴史』創土社、2006年。

### オフィスアワー

### その他特記事項

参考URL

備考

---

科目名： イスラーム前近代史

担当教員： 末野 孝典

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-OH2-G207

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:01:00

更新者： gakubuadmin 更新日時： 2024-01-16 19:07:03

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

この授業では、前近代におけるイスラームの歴史をより深く理解することを目指します。前近代のイスラーム世界は時間的にも地理的にも極めて広大であるため、以下のような4つのトピックを設定して解説します。

(1) イスラームの誕生  
まずはじめに、預言者ムハンマドに啓示が下される以前／以後のアラビア半島社会の歴史状況について確認し、ムハンマドが生涯をかけて築き上げたウンマ＝共同体が分裂して以降の政治的動乱からウマイヤ朝崩壊までの歴史を扱います。

(2) 学と知の継承  
続いて、アッバース朝の時代（ここでは8世紀から10世紀末までを射程とする）において学と知がどのように形成されてきたのかについて説明します。言うまでもなく、イスラームに係わる知識が書物の形式で伝わるようになる以前は、口承によって知識が伝達されていたわけですが、そこには「口伝」と「書伝」のあいだにある複雑な緊張関係がありました。後代に知を伝達する手段として「書伝」が有力になった歴史のプロセスを辿りながら、政治的権威とカラム、ファルサファといった学問の関わりについても取り上げます。

(3) スーフィズムの成立と拡大  
ここでは、スーフィズム（アラビア語原文だとタサウフ）がどのような歴史を歩んできたのかについて解説します。受講者にとってあまり馴染みのない分野だと思われるので、基本事項についても確認しますが、特にイスラーム思想史上、最大の師とも称されるイブン・アラビーとその後継者たちの神秘主義思想（存在一性論や完全人間論など）を解説することに重きを置きます。近年、世界的にも盛り上がりを見せている文字論についての考え方も紹介します。

(4) 辺境のイスラーム  
最後のトピックでは、中東から西アフリカに舞台を移し、当該地域におけるイスラームの歴史的展開について説明します。具体的に言えば、サハラ沙漠以北と以南のヒト・モノ・カネをつなぐサハラ縦断交易を取り上げたり、この地域で歴史叙述が生まれた政治的動機についてなどを解説します。中東と異なる地域のイスラーム史を学ぶことで、比較の視座を養うことも目指します。

**科目目的**

イスラーム史を学ぶうえで欠かすことのできない史料に関する専門的な知識を身につけるとともに、歴史事象を考察するための視野を培うことを目的とします。  
また4年次に執筆する卒業論文のためにテーマを探る手掛かりを附与することも目指します。

**到達目標**

1. 前近代のイスラーム世界の歴史的展開を大まかに説明できる。
2. イスラーム史を扱ううえでの史料性格について説明できる。
3. 前近代イスラーム史における研究テーマを先行研究を踏まえて見つけ出すことができる。
4. 自らが設定した研究テーマに対して史料や先行研究を踏まえながら、自らの見解を論じることができる。

**授業計画と内容**

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 イスラームの誕生①：イスラーム以前と以後のアラブ社会
- 第3回 イスラームの誕生②：聖典クルアーンの世界観
- 第4回 イスラームの誕生③：アラブ帝国からイスラーム帝国へ
- 第5回 学と知の継承①：タスニーフ運動と書式の形成
- 第6回 学と知の継承②：翻訳運動とファルサファ
- 第7回 学と知の継承③：異端審問とカラム
- 第8回 スーフィズムの成立と拡大①：禁欲主義から神秘主義へ
- 第9回 スーフィズムの成立と拡大②：イブン・アラビーとその後継者たち
- 第10回 スーフィズム成立と拡大③：文字神秘主義
- 第11回 辺境のイスラーム①：サハラ縦断交易と諸王国の興隆
- 第12回 辺境のイスラーム②：年代記ジャンルの成り立ち

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと  
授業終了後の課題提出  
その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	70%	学期末のレポート課題により、全体の到達度について評価します。なお字数は3000字程度を予定としています。
平常点	30%	授業への参加・貢献度、受講態度(意見の表明、他の学生と協調して学ぶ態度等)の状況を基準とします。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

本講義の成績評価方法については初回の授業で詳しくアナウンスする予定です。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

## テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。レジュメを適宜配布します。  
ここでは、前近代のイスラーム史の大枠を知るうえで役立つ参考書を幾つか紹介しておきます。

- ・アルバート・ホーラーニー（湯川武・阿久津正幸訳）『アラブの人々の歴史』第三書館、2003年。
- ・井筒俊彦『イスラーム思想史』中央公論新社、2005年。
- ・小杉泰『イスラーム文明と国家の形成』京都大学出版会、2011年。
- ・菊地達也『イスラーム教「異端」と「正統」の思想史』講談社、2009年。
- ・佐藤次高『イスラームの国家と王権』岩波書店、2004年。
- ・ジョナサン・バーキー（野本晋・太田絵里奈訳）『イスラームの形成：宗教的アイデンティティと権威の変遷』慶應義塾大学出版会、2013年。

※より詳しい文献案内は授業内で行います。

## オフィスアワー

## その他特記事項

特になし

## 参考URL

## 備考

---

**科目名： イスラーム近現代史****担当教員： 鈴木 恵美**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：火3

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G208

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:01:01 更新者：AA2229

更新日時：2024-01-18 12:07:34

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

中東地域における近代国家の建設とイスラームをテーマに、同地域が直面している諸問題の背景を探る。具体的に取り上げるテーマは、パレスチナ問題、アラブ共和主義革命、イスラーム主義の台頭、アラブ動乱（「アラブの春」）などである。最終的にはこれらの問題について、個別の問題としてではなく、一つの大きな流れのなかで理解できるようになることを目指す。

**科目目的**

中東地域を特殊な地域とせず、国際社会全体のなかでとらえること。  
地域の問題について、自身の意見を述べるができるようになること。

**到達目標**

現在、中東地域で起きている問題について、歴史的な経緯を踏まえて体系的に理解すること。また、問題に対して、一方的な視点からではなく、多角的な視点から考察する能力を養うこと。授業で学ぶ知識と現代の問題を一つの流れの中でとらえること。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス、中東地域の特徴
- 第2回 中東地域の問題の見方
- 第3回 オスマン帝国の解体とアラブ地域
- 第4回 イスラエル建国
- 第5回 アラブ共和主義革命
- 第6回 第三次中東戦争と民族解放運動
- 第7回 レバノン：多極共存型国家の理想と現実
- 第8回 イラン・イスラーム革命、ソ連のアフガニスタン侵攻
- 第9回 イスラーム主義の系譜とグローバル・ジハードの拡大
- 第10回 アラブ動乱（「アラブの春」）の背景
- 第11回 軍と政治
- 第12回 イスラーム主義政党の台頭
- 第13回 イスラーム主義か民主主義か
- 第14回 イスラーム近現代史の総括

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

- ・授業の前に高等学校世界史教科書（とくに近現代の部分および西アジア地域に関する部分）を読み直して予習しておくことが望ましい。
- ・現在の西アジア（中東）で起きる事件や報道について、新聞・テレビ・ネットニュースなどに注意し、同地域が抱える問題に関する知識を深め、授業に参加する。そこで疑問に感じた事項などを整理して、授業中あるいはコメントペーパーで質問をするなど積極的に参加する態度を取る。
- ・授業の後、その内容を復習し、次回の授業に備える。



### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 学習した内容の理解度
レポート	0%
平常点	30% 授業に対する積極性
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

コメントペーパーなどで授業内容についての質問を受け、次回授業で解説・補足説明を行なう。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストは特に設けない。参考文献は授業中に適宜指示する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考



科目名： 朝鮮史

担当教員： 木村 拓

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 火1

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-OH2-G209

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:01:01 更新者： AA2344

更新日時： 2024-01-07 10:01:58

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

韓国・朝鮮の文字文化というと、ハングルを想起する方が多いと思います。しかし韓国・朝鮮は、中国・日本・ベトナムと同様、伝統的には漢字文化圏に属していました。漢字は中国由来のものですが、東アジアの文字文化に決定的な影響を与えました。韓国・朝鮮の歴史や伝統文化を知るためには、韓国・朝鮮の文字文化における漢字の位相、そして漢字とハングルの関係を見極める必要があります。漢字というと、近代化の阻害要因として見られた時期もあり、今もその傾向がないとは言えません。またハングルについても、今や世界に誇るべき朝鮮民族の文字として評価を受けていますが、実はそうした評価も歴史的な産物なのです。本講義では、東アジアという地域設定の中で、韓国・朝鮮における漢字・ハングルの生成及びその使用の歴史的な展開を考えていくことにより、韓国・朝鮮、ひいては東アジアにおける文字文化の特徴を理解することを目指します。

**科目目的**

ハングルの歴史を考えることによって、朝鮮の歴史・文化とその東アジアにおける位相を把握することを目的とします。

**到達目標**

- 以下の点を大きな到達目標とします。
- ・ハングルの歴史的な特徴を理解できるようになる。
  - ・現代韓国・朝鮮の文字文化の歴史的背景を理解できるようになる。
  - ・東アジア諸国の文字文化を俯瞰できるようになる。

**授業計画と内容**

- 第1回 導入：東アジアと漢字文化圏
- 第2回 漢字の変遷と「漢字系文字」
- 第3回 漢字の伝播と受容1：朝鮮の場合
- 第4回 漢字の伝播と受容2：日本の場合
- 第5回 漢字の伝播と受容3：ベトナムの場合
- 第6回 朝鮮における文字文化1：訓民正音の創制とその構造
- 第7回 朝鮮における文字文化2：小中華意識との関連
- 第8回 朝鮮における文字文化3：訓民正音の由来
- 第9回 朝鮮における文字文化4：訓民正音の使われ方
- 第10回 近代日朝関係史の概略
- 第11回 ハングルと近代：「諺文」から「国文」へ
- 第12回 日本の植民地支配とハングル
- 第13回 「解放」後におけるハングル
- 第14回 総括：DVD視聴「ハングルの再発見」

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

授業内で指定された参考文献を読んでおくこと。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	70% 期末レポートに当たります。課題の内容については、授業中に説明します。
平常点	30% 授業への参加状況、毎回の小レポートの提出状況および内容について評価します。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

期末レポート及び小レポートの詳細については、授業開始後、授業で説明します。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストは、毎回レジュメ等を配布します。  
参考文献は、授業で随時紹介します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

**科目名： 中央アジア史****担当教員： 新免 康**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限： 火1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G210

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:01:01 更新者：AA0014

更新日時：2024-01-09 19:16:44

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

現在の旧ソ連領中央アジア諸国家に該当する中央アジア地域を歴史的に設定し、その近現代史の流れを辿ります。とくに、ロシア帝国・ソ連の統治下における政治的枠組と政策の変化だけでなく、それとの連関において当該地域の主要な住民であるテュルク系・イラン系ムスリムの諸民族の社会・文化の変容に注目しつつ、歴史の各段階における重要な局面について検討したいと思います。その上で、近現代史の推移を通してそれが現在の状況にどのようにつながっているかについても考えます。

**科目目的**

中央アジア（おもに旧ソ連領中央アジア）とはどのような特徴をもつ地域であり、とくに近現代においてどのような歴史を辿ってきたのか、という問題について具体的な知識を習得するとともに、歴史の内実を系統的に理解するための視点を養うことを目的とします。また、そのような歴史的背景を視野にいれつつ、現在の中央アジア地域の様相、とくに在住諸民族の文化・社会に対する理解を深めます。

**到達目標**

- ・中央アジア（おもに旧ソ連領中央アジア）がどのような特徴をもつ地域であり、とくに近現代においてどのような歴史を辿ってきたのか、という問題について具体的な知識を習得し、それを自ら系統的に説明できるようになることを目標とします。
- ・中央アジアの近現代における歴史の流れについて、各段階の具体的な状況を含め把握します。
- ・とくにロシア・ソ連の統治下における中央アジアの諸民族の社会・文化の状況とその変容の様相について理解を深めます。
- ・上記の作業を通じて、中央アジアの歴史の内実を系統的に理解するための視点を養います。
- ・また、近現代史に関する知識・視点を背景としつつ、現在の中央アジア地域の様相、とくに在住諸民族の社会・文化に対する理解を進めます。

**授業計画と内容**

基本的に講義形式で授業を行います。各回の授業内容は以下の通りです。

1. 授業計画、中央アジアという地域の設定
2. 現在の中央アジアの諸民族とその特徴、歴史展開の様態
3. ロシア帝国進出以前の中央アジア
4. ロシア帝国の中央アジア進出とその背景
5. ロシア帝国による中央アジア統治政策
6. ロシア帝国統治下のムスリム社会とその変容
7. ジャディード運動の勃興
8. ジャディードの思想と活動
9. トルクスタン・ナショナリズム
10. ロシア革命とソ連時代前期の中央アジア
11. ソ連時代後期の中央アジア
12. ソ連解体後の中央アジア
13. 中央アジアの文化とイスラーム
14. まとめ

※基本的に対面で授業を行う予定です。

※事情（合理的な理由）により対面での授業への出席が叶わない履修者がいる場合は、資料配信型などで対応致します。

※具体的な授業方法・段取等についてのお知らせは、manabaのコースニュースに掲載しますので、随時確認してください。

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の授業において、授業内容に関わる課題を出しますので、manabaのレポート機能を用いて小レポートを提出していただきます。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	30% 学期末の課題レポートにより、全体的な到達度について確認します。
平常点	70% 授業への参加状況、毎回の小課題の回答状況・内容について評価します。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

・毎回の授業においてResponアプリのカード(出席のみ)を使って、出席を確認する予定です。各授業ごとに出席を確認できた学生の提出した小レポートを評価の対象とします。正当な理由なく欠席した場合は、その欠席した回の小レポートを提出することはできません。

・小レポートを正当な理由なく5回以上提出しなかった者、学期末の課題レポートを提出しなかった者は評価の対象とせず、E判定とします。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

- ・毎回、授業内容に関わる課題を出し、小レポートを提出していただき、次回に課題に対する皆さんの回答を踏まえ、全体的な講評を行います。
- ・毎回の授業内容に関して皆さんから出た質問に対し、基本的にすべて回答を提示します。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

- 教科書は用いません。毎回の授業の際に資料を配布します。  
参考文献については随時紹介していきますが、全体に関わるものとして以下を掲げます。
- ・小松久男編『中央ユーラシア史』山川出版社、2000年。ISBN: 978-4634413405
  - ・小松久男等編『中央ユーラシアを知る事典』平凡社、2005年。ISBN: 978-4582126365

- ・宇山智彦編『中央アジアを知るための60章』【第2版】明石書店、2010年。ISBN: 978-4750331379
- ・小松久男・荒川正晴・岡洋樹編『中央ユーラシア史研究入門』山川出版社、2018年。ISBN: 978-4634640870

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

---

**科目名：環境史の方法****担当教員：村松 弘一**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：木1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G212

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:01:02 更新者：AD1451

更新日時：2024-01-05 23:22:56

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

人類の営みの歴史は、自然や環境と不可分の関係にあります。歴史上、人々は自然をどのようにとらえ、どのように利用してきたのでしょうか。また自然環境の変化にどのように対応してきたのでしょうか。本講義では、古代東アジア世界を中心に自然環境と人間との関わり方の歴史について考えます。テーマは「気候変動と古代文明・古代帝国の盛衰～始皇帝の統一と三国志の時代の背景」「馬が語る古代東アジア世界史～馬の飼養と使用、厩牧システム」「池から見た古代東アジア～長安の都市水利と農業灌漑水利」「古代帝国の開発と救済～災害と疫病の東アジア」「水路でつながる北と南～「運河」と秦漢帝国」などを取り上げます。

**科目目的**

- ・人間社会とそれをとりまく環境の双方から歴史の変化の因果関係を理解することができる。
- ・東アジア地域の地理と歴史の概略を理解し、その他アジア地域や世界の環境問題を歴史的に理解し、比較することができる。

**到達目標**

- ・人間社会とそれをとりまく環境の双方から歴史の変化の因果関係を理解することができる。
- ・東アジア地域の地理と歴史の概略を理解し、その他アジア地域や世界の環境問題を歴史的に理解し、比較することができる。

**授業計画と内容**

- ・授業予定
- 第1回 インTRODクシヨンーこの授業で何を学ぶのか、評価の方法等ー
- 第2回 東アジア地域の地理と自然環境
- 第3回 気候変動と古代文明・古代帝国の盛衰①～始皇帝の天下統一と環境
- 第4回 気候変動と古代文明・古代帝国の盛衰②～三国志の時代と環境
- 第5回 馬が語る古代東アジア世界史①～馬の飼養と使用、秦漢帝国の厩牧システム
- 第6回 馬が語る古代東アジア世界史②～東アジアの馬と国家
- 第7回 池から見た古代東アジア①～秦の咸陽と漢の長安の都市水利
- 第8回 池から見た古代東アジア②～「陂」と「塢」の東アジア
- 第9回 古代帝国の開発と救済①～漢代の災害と救済
- 第10回 古代帝国の開発と救済②～晋・杜預上疏が語る開発と水害
- 第11回 水路でつながる北と南～「運河」と秦漢帝国
- 第12回 プレゼンテーション①
- 第13回 プレゼンテーション②
- 第14回 全体のまとめと総理解

- ・原則対面形式で授業をおこないます。
- ・授業内容は履修者のみなさんの質問に答えるために変動します。
- ・授業で提示する資料はmanaba上に掲示します。
- ・履修人数にもよりますが、レポートに関するプレゼンテーションをしてもらう予定です。

以上

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**



授業時の配布資料、参考文献等を参照して、授業内容についての理解を深めてください。  
また、インターネットなども活用し東アジア地域や日本、その他地域の自然環境や歴史問題に関する情報も検索して関心を広げようとしてください。

### 授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	・授業期間中に提示するレポート課題および関連するプレゼンテーションにより総合的に判断します。
平常点	40%	・毎回、授業後課題（授業内容に対する質問等）を提出する。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）

反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）

ディスカッション、ディベート

グループワーク

- ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

参考文献

(概論)

- ・吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学』ミネルヴァ書房、2022年
- ・漢学文献情報処理研究会編『デジタル時代の中国学リファレンスマニュアル』好文出版、2021年
- ・岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会、2013年
- ・岡本隆司『世界史とつなげて学ぶ 中国全史』東洋経済新報社、2019年(単行本)
- ・鶴間和幸『秦漢帝国へのアプローチ』山川出版社、1996年
- ・鶴間和幸『中国の歴史 ファーストエンペラーの遺産』講談社学術文庫、2020年
- ・原 宗子『環境から解く古代中国』大修館、2009年
- ・妹尾達彦『グローバルヒストリー』中央大学出版部、2018年

- ・上田 信『森と緑の中国史』岩波書店、1999年
- ・上田 信『トラが語る中国史』山川出版、2002年
- ・飯島 渉『感染症の中国史』中公新書、2009年
- ・村松弘一・鶴間和幸編『馬が語る古代東アジア世界史』汲古書院、2018年
- ・村松弘一『中国古代環境史の研究』汲古書院、2016年
- ・丸山真史・菊地大樹編『家畜の考古学：古代アジアの東西交流』2022年  
(辞典類)
- ・中国文化事典編集委員会『中国文化事典』丸善出版、2017年
- ・横浜国立大学都市科学部『都市科学事典』春風社、2021年

テキストは指定しません。

### オフィスアワー

### その他特記事項

東洋史のみならず日本史、西洋史の学生の履修も歓迎です。

### 参考URL

### 備考

---

科目名: グローバル歴史入門

担当教員: 末野 孝典

履修年度: 2024 学期: 前期

開講曜日時限: 水1

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-HT2-G214

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:01:02 更新者: AD1712

更新日時: 2024-01-18 16:33:58

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

近代歴史学が誕生して以来、歴史学は実にさまざまな立場や方法が採られてきました。グローバル・ヒストリーはそのひとつの潮流として、2000年代以降に急速に発展してきた分野といえます。本講義では、グローバル・ヒストリーについての基本的な考え方を理解するために、(1)近代歴史学と「新しい」歴史学の学問的性格の違いについて、(2)グローバル・ヒストリーが現れた時代背景とその特徴について、(3)グローバル・ヒストリーの実践面について、の三つの観点から議論を進めていく予定です。

**科目目的**

グローバル・ヒストリーについて考える・実践するための基礎知識を提供します。

**到達目標**

1. 歴史学を研究するための基本的な技法について説明することができる。
2. 近代歴史学の学問的性格を踏まえたうえで「新しい」歴史学の諸特徴について説明できる。
3. グローバル・ヒストリーのアプローチ方法について説明することができる。
4. グローバル・ヒストリーとは何かについて、本講義の内容を理解したうえで説明できる。

**授業計画と内容**

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 「世界史」は何処に?
- 第3回 近代歴史学の成立
- 第4回 「新しい」歴史学① 比較史とトランスナショナル・ヒストリー
- 第5回 「新しい」歴史学② 『地中海』と「世界システム」論
- 第6回 「新しい」歴史学③ ポストコロニアリズム
- 第7回 グローバリゼーションの歴史学
- 第8回 グローバル・ヒストリーにおける時間
- 第9回 グローバル・ヒストリーにおける空間
- 第10回 モノのグローバル・ヒストリー
- 第11回 思想のグローバル・ヒストリー
- 第12回 グローバル・ヒストリーを書くということ
- 第13回 グローバル・ヒストリーとは何か
- 第14回 総括

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験 100% 到達目標の達成度をはかる期末試験を行い、その成績に基づき評価します。

レポート 0%

平常点 0%

その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
タブレット端末  
その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。必要に応じてmanabaで資料を配布します。  
ときとして授業の最後にその次の回にまで読むべき文献を挙げる場合があります。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

**科目名： 東洋美術史A****担当教員： 砂澤 祐子**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限： 金3

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-HR1-G301

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:01:03 更新者：XEC403

更新日時：2024-01-05 18:53:01

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

「東洋美術史A/東洋史特論(2)A」は、いわゆる「中国美術史」の通史の授業です。この授業では、日本が属する東アジアで最も早く文明の開けた中国の新石器時代から清時代まで、紀元前6000年頃から20世紀までの主な絵画・書・彫刻や陶芸・漆工などの工芸品について具体的に講義します。スライドで作品を見ながら、中国美術作品が生み出された歴史や社会背景を解説し、合わせて日本や韓半島への影響についても触れていきます。また、日本独自の視点で中国美術を鑑賞してきた歴史についても紹介します。

授業キーワード：中国、宗教、歴史、文化、美術、工芸、絵画、書、彫刻、陶磁、漆芸

**科目目的**

中国の主要な美術作品に関する基礎知識を身に付け、その背景にある中国の歴史・社会について考察し、中国美術の多様性と造形の特色についての理解を深めることを目的とします。それによって日本や韓半島の美術との相違点、および類似点に興味を持つことができるようになり、また、美術作品の見方を身につけることを目指します。

**到達目標**

中国の新石器時代から清時代までの主要な美術作品に関する知識を習得し、各時代の絵画・書・彫刻や陶芸・漆工について、具体的な作品例を挙げながら説明できるようになることを目標とします。陶芸作品については、その名称から技法などを理解し作品をイメージできるようになることを目指します。

**授業計画と内容**

- 第1回 イン트로ダクション：「東洋」とは何か？
- 第2回 中国の原始美術 やきものの黎明期と青銅器文明の発達
- 第3回 春秋・戦国時代の美術 覇者の美術
- 第4回 秦・漢の美術 統一王朝の美術
- 第5回 魏晋・南北朝の美術 諸国の興亡の中で
- 第6回 隋・唐の美術 美術の急激な発達と東アジア文化圏の国際様式
- 第7回 五代・北宋の美術 中国美術の本流
- 第8回 北宋と南宋の美術 文化人の美術
- 第9回 南宋の美術 豊かな経済の下での発展と洗練された様式—陶芸を中心に
- 第10回 元の美術 大帝国の美術 東西の国際交流の中で
- 第11回 明の美術 伝統文化の復興
- 第12回 明末清初期の美術 大航海時代を迎えて
- 第13回 清の美術 表現の多様化と工芸技法の深化
- 第14回 中国美術の影響 韓半島と日本の美術への影響

※本科目はすべての授業回について、対面授業を行います。

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

美術館・博物館を積極的に見学すること

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	30%	学期末のレポート（2400文字程度、30点満点）に基づく。レポートの内容については、初回授業時に指示する。
平常点	70%	第第1回～第14回の講義に基づく課題への回答および授業へのコメント（5点×14）に基づく。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件：出席率が70%に満たない者、レポートを提出しない者についてはE判定とします。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト：  
使用しません。レジュメを配布します。

参考文献：  
入門書としては、以下の書籍が挙げられます。  
前田耕作監修『増補新装 カラー版 東洋美術史』東京：美術出版社、2012年  
ISBN：978-4-568-40083-0  
金子典正編『芸術教養シリーズ3 アジアの芸術史 造形編 I 中国の美術と工芸』京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 藝術学舎 ISBN：978-4-344-95161-7

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL



**科目名： 東洋考古学B****担当教員： 長谷川 奏**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限： 月2

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-AR1-G304

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:01:04 更新者：AD1446

更新日時：2024-02-20 04:36:13

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

本講義では、まず本講義のキーワードとなっている「イスラーム」の世界を日本の視点から眺め、「考古学」的なアプローチの意味を考える。次にイスラームの登場から展開という歴史的な経緯を学ぶと共に、イスラーム文明の特質である経済・相互扶助・サイエンスといった側面を理解する。その上で、イスラーム世界の生活文化の中でも、暮らしの場(庭園・装飾・工芸・食卓・住居)とふしぎ物語(アラビアンナイト)を考古学トピックとして扱い、イスラーム世界固有の精神文化と物質文化を概観する。そして最後に、現代イスラーム世界の中のイスラーム考古学の問題を、「開発」と「保存」のせめぎあいの局面から考えてまとめたい。

**科目目的**

イスラーム世界は、日本にとってはかつては遠い存在であったが、多文化社会に直面しているいま、イスラームへの真の理解が求められている現状がある。本講義は、歴史の時間軸を遡りながら、特に物質文化の観点から、その独自性を理解するための講座である。

**到達目標**

イスラームの独自性は、精神文化と物質文化の双方の側面から学ぶ必要があるが、本講義で、後者の物質文化の側面を、トピックを掘り下げながら理解していく。そのためには、イスラーム世界の歴史・文学・美術の幅広い領域に関心をもつ必要がある。

**授業計画と内容**

1. はじめにー日本人とイスラーム世界、考古学の世界ー
2. イスラームの信仰
3. イスラーム登場
4. イスラーム世界の拡大
5. イスラーム文明の特質を読み解く 1ー商業的性格と相互扶助ー
6. イスラーム文明の特質を読み解く 2ー地中海世界の知の遺産とイスラームー
7. イスラーム文明と考古学トピック 1ー庭園のアーケオロジーー
8. イスラーム文明と考古学トピック 2ー装飾のアーケオロジーー
9. イスラーム文明と考古学トピック 3ー工芸のアーケオロジーー
10. イスラーム文明と考古学トピック 4ー食卓のアーケオロジーー
11. イスラーム文明と考古学トピック 5ー住居のアーケオロジーー
12. イスラーム文明と考古学トピック 6ー不思議ものがたりのアーケオロジーー
13. イスラーム世界のイスラーム考古学ー「開発」と「保存」のせめぎあいー
14. 総括・まとめ・到達度確認

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

参考文献の中から、授業テーマに関わるポイントを、あらかじめ目を通して触れておくことが薦められる。また配布したレジメやノートには、講義で印象的に学んだ点を書き留め、インターネットや図書館での情報検索を通じて、理解度を高めていくと良いであろう。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**



中間試験	0%
期末試験	60% 講義で解説したポイントが十分に理解されているか、問いに対して適切な回答が文章化できているかをチェックする。
レポート	20% 課題に関して、十分な情報検索ができているか、引用文献の明示などができているかをチェックする。
平常点	20% 授業の出席率やリアクション・ペーパー等への対応をチェックする。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

- ✓ その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

レポートの読後の感想など、適宜、授業時間内で述べる。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)  
 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
 タブレット端末  
 その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

佐藤次高『イスラームの生活と技術』山川出版社、1999。  
 加藤博『イスラーム世界の経済史』NTT出版、2005。  
 アフマド・Y. アルハサン、ドナルド・R. ヒル著『イスラーム技術の歴史』平凡社、1999。  
 ジョナサン・ブルーム著、榎谷友子訳『世界の美術—イスラーム美術』岩波書店、2009。  
 木島安史『カイロの邸宅—アラビアンナイトの世界』丸善出版、1990。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

この科目は対面形式です。

**科目名： 東洋史特論A**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限： 火1

**担当教員： 前田 弘毅**

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH1-G305

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:01:04 更新者：XEC404

更新日時：2023-12-31 17:30:13

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

中東・中央ユーラシア・ロシア・東ヨーロッパ地域の現在に大きな影響を与えた近世ユーラシア帝国形成について、特にサファヴィー朝イラン（サファヴィー帝国）（1501年—1736年）に注目して解説する。中でも、王朝の画期であるアッバース1世（在位1587—1629年）の治世に焦点をあてながら、近世におけるユーラシア帝国秩序再編について考察することで、ユーラシア史を構造的に理解することが出来るようになる。さらに同時代のオスマン帝国と比較することで、近世イスラーム帝国の特徴を理解する。

遊牧帝国かつシリア派教団国家としてのサファヴィー朝の出発点を確認した後、アッバース1世によるイスファハーンを結節点とした国土改造と軍事行政制度等の統治体制の変革を検討する。その上で、改革の担い手となったコーカサス出身「王の奴隸」集団やアルメニア商人について、政治的・文化的・宗教的「境界」を超えた集団の観点から捉え直す。こうした国家制度の諸問題について、同時代のオスマン帝国（大きな国制変革を経験し、「第二帝国」と呼ぶ研究者も存在する）の事例についても言及する。このほか、ペルシア語およびジョージア（グルジア）語史料等についても適宜紹介する。

**科目目的**

この科目は、イスラーム近世帝国の歴史に精通することで、東洋史に対する理解を深めることを目的とする。

**到達目標**

ユーラシア大陸の大きな政治変動を、様々な歴史理論・観点から理解すると同時に、そのような動きを実際に担った人びとの実像について迫ることで、世界史像をよりニュアンスに富んだ総体として理解することができるようになる。

**授業計画と内容**

- 第一回 インTRODクシヨン 近世帝国としてのサファヴィー朝イラン
- 第二回 近世という時代とイランという舞台
- 第三回 遊牧国家としてのサファヴィー朝
- 第四回 教団国家としてのサファヴィー朝
- 第五回 アッバースの改革～行政・軍事体制の刷新
- 第六回 アッバースの改革～イスファハーンは世界の半分
- 第七回 アッバースのハウスホルド帝国
- 第八回 奴隸軍人とイスラーム奴隸言説
- 第九回 奴隸軍人のハウスホルド
- 第十回 コーカサス～奴隸軍人の来たところ
- 第十一回 辺境の統合・越境する人びと
- 第十二回 バラタシュヴィリ家のサガ
- 第十三回 近世帝国を担った人びと
- 第十四回 まとめと課題（論述式を含む）

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	25%	サファヴィー朝の成り立ちとその特質を理解した上で、その史的意義について説明できるかを評価します。 なお、課題図書のリポート提出に変える場合があります。
期末試験	50%	近世ユーラシア帝国の特徴を理解した上で、その史的意義について説明できるかどうかを評価します。
レポート	0%	
平常点	25%	授業への参加・貢献度、受講態度を評価します。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

以下のテキストを授業中に使用する。  
前田弘毅『アッパースー一世』山川出版社、2022年、ISBN978-4-634-35045-8

その他、参考文献等については授業中に適宜指示をするが、特に以下の図書は授業を通して参考になる。  
チャールズ・キング (前田弘毅監訳) 『黒海の歴史：ユーラシア地政学の要諦における文明世界』明石書店、2017年  
ISBN9784750344744

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

**科目名： 東洋史特論B****担当教員： 渡部 良子**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限： 火1

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH1-G306

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:01:04 更新者：XEC405

更新日時：2024-01-09 23:24:30

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

この授業では、イスラーム期のイラン高原の中世史を学びます。7世紀のアラブ・イスラーム勢力による征服後、イスラームとイスラーム以前のイラン文化が融合・併存する独自の文化を生んだイラン高原のイスラームは、10世紀以降、中央アジアから西アジアに進出したテュルク系遊牧民の軍事王朝の支配、13世紀のモンゴル帝国の征服を受け、多民族・多言語・多文化からなる多元的社会・文化・諸制度を形成し、他のイスラーム圏諸地域の文化・社会にも多大な影響を与えました。イスラーム史の展開の多様性を考える上で、イラン高原のイスラーム史は、極めて重要な事例といえるでしょう。この授業では、西アジア・イスラーム史、イラン史における変化の時代である13-14世紀モンゴル帝国期に焦点を当て、多様な類型のペルシア語の史料を読み解きながら、イラン史研究からいかなる歴史学的思考を学びとれるか、考えていきます。

**科目目的**

イスラーム史の多様性を理解する手がかりとして中世イラン史に焦点を当て、より深い専門的知識と研究法を学ぶことで、イスラーム史研究、歴史研究の思考・分析方法を身につけます。

**到達目標**

1. イラン史、イラン高原に焦点を当てたイスラーム史の展開を理解する。
2. イラン史、イスラーム史研究の多様な史料類型を知り、史料に基づくイスラーム史研究の基礎的手法を理解する。
3. イラン史、イラン高原に焦点を当てたイスラーム史研究の様々な論点を学び、イスラーム圏の現代の社会・文化を理解する手がかりにできるようにする。

**授業計画と内容**

- 第1回 インTRODakション：中世イラン史研究への視座
- 第2回 中世イラン史概論(1)：イスラーム期イラン史の展開(12世紀まで)
- 第3回 中世イラン史概論(2)：13～14世紀モンゴル帝国時代の西アジアとイラン
- 第4回 論点(1)＝モンゴル支配期イラン史の連続性と変化①：遊牧国家の支配
- 第5回 論点(1)＝モンゴル支配期イラン史の連続性と変化②：行政機関と官僚たち
- 第6回 論点(2)＝言語から見える歴史①：近世ペルシア語の発展
- 第7回 論点(2)＝言語から見える歴史②：モンゴル支配期の言語と「ペルシア語文化圏」の発展
- 第8回 モンゴル支配期の文化変容：東西文化交流とペルシア絵画美術
- 第9回 論点(3)＝モンゴル時代のイスラーム思想①：政治思想の変容
- 第10回 論点(3)＝モンゴル時代のイスラーム思想②：シーア派の発展
- 第11回 論点(3)＝モンゴル時代のイスラーム思想③：スーフイズムと社会
- 第12回 論点(4)＝世界観と歴史叙述①：イスラーム文化における歴史叙述
- 第13回 論点(4)＝世界観と歴史叙述②：モンゴル支配期の歴史叙述の発展とその影響
- 第14回 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	50%	学期末のレポート課題（3000字程度を予定）で、授業の学修成果に基づき研究に取り組んでもらいます。詳細は授業で説明します。
平常点	50%	毎回の理解度チェックテスト、受講コメントの提出で理解度を確認します。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）  
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manaba以外のICTの活用はしませんが、manabaで授業資料を配布するほか、各回のテーマの学修をより深めるための参考・補足資料を配布・紹介していきますので、manabaをよく参照するようにしてください。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

特定の教科書は使用せず、毎回配布するレジュメ・資料に基づいて授業を進めます。  
基本の参考書は、第1回イントロダクションで一覧を配布します。  
毎回のテーマに即したより詳しい参考文献・先行研究は、授業資料で紹介します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名: アラビア語(1)A

担当教員: 松本 隆志

履修年度: 2024 学期: 前期

開講曜日時限: 月2

配当年次: 1・2年次担当

科目ナンバー: LE-OW1-G801

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:01:05 更新者: AC9091

更新日時: 2024-01-08 06:50:57

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

テキストを用いた講義形式です。本講義では正則アラビア語の文法の初歩を学んでいきます。あくまでも文法の授業であり、会話表現の授業ではないことにご注意ください。ほぼ毎回課題を出す予定であり、また必要に応じて小テストを実施することもあります。前期は特にアラビア語の名詞・形容詞・前置詞の用法と基本名詞文を学びます。

**科目目的**

中東・西アジアの歴史・社会・文化を学ぶ上で必須であるアラビア語文献の読解を可能とするために、正則アラビア語文法の初歩を修得することが本講義の目的です。

**到達目標**

アラビア語の基本名詞文(名詞・形容詞・前置詞などで構成される文)を理解できるようになる。

**授業計画と内容**

- 第01回 ガイダンス
- 第02回 1章 アラビア文字の書き方と発音/文字のつなげ方と発音記号
- 第03回 2章 非限定/限定 3章 格変化の基本
- 第04回 小テスト(1~3章)と解説
- 第05回 4章 基本名詞文
- 第06回 5章 性 6章 数
- 第07回 小テスト(4~6章)と解説
- 第08回 7章 指示詞/人称代名詞 8章 前置詞
- 第09回 9章 動詞 ليس と疑問詞 هل、أ
- 第10回 小テスト(7~9章)と解説
- 第11回 10章 形容詞による修飾とイダーファ表現
- 第12回 11章 名詞のまとめ
- 第13回 12章 形容詞のまとめ
- 第14回 総括

以上の授業計画は状況により変更となる可能性があります。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

アラビア語の学習には予習・復習が不可欠です。テキストに目を通すことはもちろん、テキストに収録されている練習問題や授業で出される課題をしっかりとこなして、暗記事項を一つ一つ押さえていく地道な自学自習の取り組みが求められます。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- 中間試験 0%
- 期末試験 40% 前期の授業内容全体についての試験をおこないます。
- レポート 0%

平常点 60% 毎回の課題提出から評価します。  
その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

5回以上の欠席、期末試験未提出は単位取得不可となります。

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

(テキスト)

八木久美子, 青山弘之, イハブ・アハマト・エバード, 『大学のアラビア語詳解文法』, 東京外国語大学出版会, 2013年.  
テキストです。必ず入手してください。

(参考文献)

竹田敏之, 『ニューエクスプレスアラビア語』, 白水社, 2010年.

文法中心の本講義では扱わない会話表現について学べる参考書です。旅行や留学・仕事などでのアラビア語使用を想定している人はこの本で勉強するといいでしょう。

### オフィスアワー

### その他特記事項

卒論でイスラーム史を専門にするつもりの学生は、後期と合わせて履修することが望ましいです。

もちろん、単純にアラビア語の世界に興味がある学生も履修できます。

ただしアラビア語は非常に難解な言語です。講義を欠席することなく、予習復習を欠かさない覚悟と忍耐が必要です。

決して楽な科目ではないのでご注意ください。

### 参考URL

### 備考

科目名: アラビア語(1)B

担当教員: 松本 隆志

履修年度: 2024 学期: 後期

開講曜日時限: 月2

配当年次: 1・2年次担当

科目ナンバー: LE-OW1-G802

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:01:05 更新者: AC9091

更新日時: 2024-01-08 06:53:58

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

前期に引き続き、テキストを用いた講義形式で正則アラビア語の文法を学んでいきます。会話ではなく文法の授業です。ご注意ください。  
ほぼ毎回宿題を出す予定です。また必要に応じて小テストを実施することもあります。後期はアラビア語の基本的な動詞の変化とその用法が中心となります。

**科目目的**

アラビア語史料の読解に不可欠な動詞の変化と用法に習熟すること。

**到達目標**

アラビア語動詞の諸変化と用法に習熟し、それらを用いたアラビア語文の作成と読解をできるようになること。

**授業計画と内容**

- 第01回 ガイダンス
- 第02回 14章 動詞の完了形、15章 完了形の応用
- 第03回 16章 未完了直説形の基礎、17章 未完了直接形の応用
- 第04回 小テスト(14~17章)と解説
- 第05回 18章 疑問詞、副詞
- 第06回 19章 未完了接続形・短形
- 第07回 20章 命令形
- 第08回 小テスト(18~20章)と解説
- 第09回 21章 動詞<sup>كس</sup>
- 第10回 22章 動詞の受動態、分詞、動名詞
- 第11回 小テスト(21~22章)と解説
- 第12回 29章 名詞節
- 第13回 30章 接続詞のまとめ
- 第14回 総括・まとめ

以上の授業計画は状況により変更となる可能性があります。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

アラビア語の学習には予習・復習が不可欠です。  
テキストに目を通すことはもちろん、テキストに収録されている練習問題や授業で出される課題をしっかりとこなし、暗記事項を一つ一つ押さえていく地道な取り組みが求められます。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)**

- 中間試験 0%
- 期末試験 40% アラビア語動詞の運用について理解の程を問う試験をおこないます。
- レポート 0%



平常点 60% 毎回の授業への取り組みと課題を評価します。  
その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

(テキスト)

八木久美子, 青山弘之, イハブ・アハマド・エバード, 『大学のアラビア語詳解文法』, 東京外国語大学出版会, 2013年.  
テキストです。必ず入手してください。

(参考文献)

竹田敏之, 『ニューエクスプレスアラビア語』, 白水社, 2010年.

文法中心の本講義では扱わない会話表現について学べる参考書です。旅行や留学・仕事などでのアラビア語使用を想定している人は、講義と合わせてこの本で勉強するといいでしょう。

### オフィスアワー

### その他特記事項

卒論でイスラーム史を専門にするつもり学生は前期と合わせて履修することが望ましいです。

もちろん、単純にアラビア語に興味がある学生も履修できます。

ただし、アラビア語は非常に難解な言語であるため、欠席することなく積極的に予習復習に努めていく覚悟と忍耐が必要で  
す。特に後期はアラビア語動詞の諸変化を大量に暗記することになります。

前期を履修せずに受講する場合は、前期のシラバスを確認して名詞・形容詞・前置詞等について自分で学習した上で臨むよう  
にしてください。

### 参考URL

### 備考



**科目名： アラビア語(2)A****担当教員： 鈴木 恵美**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：水4

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー：LE-OW1-G803

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:01:06 更新者：AA2229

更新日時：2024-01-18 12:02:20

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)**

アラビア語

**授業の概要**

授業はテキスト講読を中心に進めるが、文語での簡単な会話も学ぶ。  
 テキスト講読では、文法事項を確認しながら、履修者全員でアラビア語テキストを読み進める。テキストは授業の初回時に配布する。  
 履修者はアラビア語の辞書を入手する必要がある。辞書については初回の授業で指示する。  
 予習と復習は必須。習得度を高めるため、授業内で複数回小テストを実施する。

**科目目的**

アラビア語の辞書が引けるようになること。  
 平易な文章に母音符号をふり、正確な発音で音読できるようになること。

**到達目標**

探している単語を辞書で速やかに引けるようになること。平易な文章の意味を理解しながら、正確な発音でスムーズに音読できるようになること。アラビア語で自己紹介ができるようになること。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス、辞書の引き方1
- 第2回 辞書の引き方の続き
- 第3回 テキスト講読1
- 第4回 テキスト講読2
- 第5回 テキスト講読3
- 第6回 テキスト講読4
- 第7回 中間まとめ
- 第8回 テキスト講読5
- 第9回 テキスト講読6
- 第10回 テキスト講読7
- 第11回 テキスト講読8
- 第12回 会話と作文1
- 第13回 会話と作文2
- 第14回 会話と作文3

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	40%	小テストでの理解度
期末試験	0%	
レポート	0%	

平常点 60% 毎回の授業での理解度  
その他 0%

#### 成績評価の方法・基準(備考)

#### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

#### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

#### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

#### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

テキストを配布する。以下の辞書を使用する。  
Hans Wehr: A Dictionary of Modern Written Arabic: Fourth Edition.

#### オフィスアワー

#### その他特記事項

特になし

#### 参考URL

#### 備考

科目名: アラビア語(2)B

担当教員: 鈴木 恵美

履修年度: 2024 学期: 後期

開講曜日時限: 水4

配当年次: 1・2年次担当

科目ナンバー: LE-OW1-G804

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:01:06 更新者: AA2229

更新日時: 2024-01-08 22:58:16

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

アラビア語

### 授業の概要

アラビア語中級程度の文語テキストの講読を中心に進めるが、文語での簡単な会話も学ぶ。予習と復習は必須。習得度を高めるため、授業内で複数回小テストを実施する。

### 科目目的

アラビア語の辞書が引けるようになること。中級程度の文語アラビア語の文章が読めるようになること。簡単なアラビア語会話ができるようになること。

### 到達目標

付帯状況の表現を理解すること。  
母音符号のない文章を、意味を理解しながら正確な発音で読めるようになること。  
簡単なアラビア語会話ができるようになること。

### 授業計画と内容

- 第1回 これまでの文法の復習
- 第2回 テキスト講読1
- 第3回 テキスト講読2
- 第4回 テキスト講読3
- 第5回 テキスト講読4
- 第6回 テキスト講読5
- 第7回 中間まとめ
- 第8回 テキスト講読6
- 第9回 テキスト講読7
- 第10回 テキスト講読8
- 第11回 会話と作文
- 第12回 会話と作文
- 第13回 会話と作文
- 第14回 会話と作文

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 40% 小テストの理解度

期末試験	0%
レポート	0%
平常点	60% 毎回の授業の理解度
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)  
 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
 ディスカッション、ディベート  
 グループワーク  
 プレゼンテーション  
 実習、フィールドワーク  
 その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
 タブレット端末  
 その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストを事前に配布する。以下の辞書を使用する。  
 Hans Wehr : A Dictionary of Modern Written Arabic: Forrth Edition.

### オフィスアワー

### その他特記事項

特になし

### 参考URL

### 備考

科目名: アジア諸言語(1)A

担当教員: 伊澤 敦子

履修年度: 2024 学期: 前期

開講曜日時限: 木2

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-OW1-G805

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:01:06 更新者: AC9479

更新日時: 2023-11-05 21:50:32

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

サンスクリットは一般に、仏典の言語として知られているが、インドやその周辺地域の文化のルーツを探る上で不可欠な言語である。系統としては、印欧語族に属し、西欧諸言語や古代ペルシャ語などとは親族関係にある。本講座では、学生はサンスクリット文法の基礎を学ぶ。特に前期では文字の読み書きから始めて、最終的に名詞・形容詞の格変化になじんでもらう。基本的には文法書に沿って説明するが、必要に応じて補助資料を配布し、補足説明を行う。その際に、文学作品の一節を紹介して実際のサンスクリットの文章に触れてもらう。また、サンスクリット文献における重要な用語の説明を織り交ぜる。

**科目目的**

サンスクリット文法の習得は、古代インドの文献を読み解くための基礎となるだけでなく、印欧語の元々の様相を探るためのよすがとなる。つまり、英語やドイツ語などの古い形とつながりがあるのである。

**到達目標**

サンスクリットに特有の連声の規則と、名詞・形容詞の格変化について習得し、簡単な文章を訳すことが出来るようになる。

**授業計画と内容**

1. イントロダクション、字母の説明
2. 字母の発音、文字の説明
3. 音論、名詞・形容詞について
4. aで終わる名詞
5. aで終わる名詞
6. i およびuで終わる名詞
7. ī およびūで終わる名詞
8. rで終わる名詞
9. as, is, usで終わる名詞
10. r, atで終わる名詞
11. vat および matで終わる名詞
12. an, man, vanで終わる名詞
13. その他の子音で終わる名詞
14. 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

文法書の中の練習題の文章を訳し、次回の授業で発表する。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験 50% 筆記試験を実施する。いくつかのサンスクリット文を和訳する。その際、各単語の意味、性、数、格をも記入する。これらによって、文章レベルだけでなく単語レベルにおいても正確に理解できているかがわかる。

- レポート 0%
- 平常点 40% 毎回授業の終わりに練習題の文章をいくつか解いて提出する。これをもって出席と見なされる。
- その他 10% 次回の授業までに練習題をいくつか課題として出す。

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

課題 (復習) を次回の授業内で発表する。必要に応じて黒板に記入する。

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

使用テキスト：サンスクリット語初等文法、J. ゴンダ著、辻直四郎 校閲、鎧淳 訳、春秋社、2001、東京  
辞書やその他の参考書については授業の中で紹介する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考



**科目名： アジア諸言語(1)B****担当教員： 伊澤 敦子**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：木2

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー：LE-OW1-G806

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:01:07 更新者：AC9479

更新日時：2023-11-05 21:51:08

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

サンスクリットは名詞の格変化や動詞の語尾変化など古い言語形態をもっともよく保持している言語である。単語の1つ1つがパズルのピースのようなもので、それぞれのピースが持っている情報によりぴったり合わせることができると、そこに1つの絵(文)が浮かび上がる。学生はそのパズルを組み立てる為のノウハウを習得する。

**科目目的**

前期に習得した名詞・形容詞に加え動詞について学ぶことで、サンスクリットの全体像をつかむ。この言語の複雑さに慣れることは、他の言語、例えばギリシャ語やロシア語などの複雑な言語を習得するうえで大いに助けになる。

**到達目標**

代名詞の格変化、動詞の語尾変化について習得し、これらを織り交ぜた少し複雑な文章を訳すことが出来るようになる。

**授業計画と内容**

1. 前期の復習
2. 比較法
3. 人称代名詞、指示代名詞
4. 関係代名詞
5. 数詞
6. 動詞について
7. 第1種活用動詞 第1類
8. 第1種活用動詞 第4, 6, 10類
9. 第2種活用動詞 第2類
10. 第2種活用動詞 第3類
11. 第2種活用動詞 第5, 7類
12. 第2種活用動詞 第8, 9類
13. 名詞の格と数、動詞の時制と法
14. 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

文法書の中の練習題の文章を訳し、次回の授業で発表する。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%
期末試験	50% 筆記試験を実施する。いくつかのサンスクリット文を和訳する。その際、各単語の意味、性、数、格をも記入する。これらによって、文章レベルだけでなく単語レベルにおいても正確に理解できているかがわかる。
レポート	0%
平常点	40% 毎回授業の終わりに練習題の文章をいくつか解いて提出する。これをもって出席と見なされる。

その他 10% 次回の授業までに練習題をいくつか課題として出す。

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

課題(復習)を次回の授業内で発表する。必要に応じて黒板に記入する。

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

使用テキスト：サンスクリット語初等文法、J. ゴンダ著、辻直四郎 校閲、鎧淳 訳、春秋社、2001、東京  
辞書やその他の参考書については授業の中で紹介する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名: アジア諸言語(2)A

担当教員: フロレンティナ、エリカ ア  
ユニングティアス

履修年度: 2024 学期: 前期

開講曜日時限: 金4

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-OW1-G807

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:01:07 更新者: AD1271

更新日時: 2024-01-08 15:00:40

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

初心者向けのインドネシア語のクラス。インドネシア語の基礎的な文法をしっかりと学んでいく。基本的な文の構造などの役割の理解が主な目標である。簡単な自己紹介、時間、曜日、前置詞などを使う表現、そして形容詞や比較表現などを紹介していく。

それだけでなく、インドネシアについての理解を深めるために、写真や動画等を用いて文化、生活、宗教などについて適宜紹介していく。言語を通して、インドネシアの暮らしや文化に触れましょう。

授業中に、ペアワーク、グループワークやロールプレイングを行い、宿題や課題も出す。

**科目目的**

- 1) 文の基本構造を理解する
- 2) 決まり文句を習得する
- 3) 簡単な日常会話ができる
- 4) 既習語彙を用いて、短文を理解できる
- 5) 自習の習慣を身につける

**到達目標**

1. 自己紹介ができる。
2. 方向を尋ねたり、値段を聞いたりするなど簡単な日常会話ができる。
3. 正しい文法や表現を使い、短い作文を作成することができる。

**授業計画と内容**

1. イントロダクション、シラバス確認、インドネシア語の特徴、インドネシアの紹介
2. 挨拶、自己紹介
3. 指示代名詞、名詞文（否定文、疑問文を含む）
4. 人称代名詞、所有格
5. 前置詞、方向、存在表現
6. 数詞、数量の表現
7. 値段
8. 中間テスト
9. 曜日と日付の表現
10. 時間と時刻
11. 形容詞
12. 比較表現
13. インドネシア語の言い回し
14. 総括（期末試験）

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

予習・復習時間を確保する。  
予習復習時間とも毎週授業時間と同等の時間が必要となる。  
授業開始直後に小テストを行う場合がありますので、必ず復習・予習して来ることが。  
受講者は、教員の指示に従って復習を行ったうえで、次の授業に臨むことを期待する。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

## 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	30%	授業期間中に行われる筆記試験
期末試験	40%	学期末に行われる筆記試験
レポート	0%	
平常点	15%	宿題と小テスト
その他	15%	出席率及び授業への積極的な取り組みを含む授業参加

## 成績評価の方法・基準(備考)

## 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

## 課題や試験のフィードバック方法(その他)

## アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

## アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

## 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

## 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

## 実務経験に関連する授業内容

## テキスト・参考文献等

教科書：  
著者名/Authors : Florentina Erika  
書名/Title : 『インドネシア語の基礎 BAHASA INDONESIA TINGKAT DASAR』  
出版社・出版年/Publisher. Year : KANISIUS 2021  
ISBN : 978-9792169287

参考書：  
著者名/Authors : 川村よし子、フロレンティナ エリカ  
書名/Title : 『日インドネシア英・インドネシア日英辞典』  
出版社・出版年/Publisher. Year : 三修社2017  
ISBN-10 : 4384058780  
ISBN-13 : 978-4384058789

## オフィスアワー

## その他特記事項

参考URL

備考

---

科目名: アジア諸言語(2)B

担当教員: フロレンティナ、エリカ ア  
ユニングティアス

履修年度: 2024 学期: 後期

開講曜日時限: 金4

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-OW1-G808

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:01:08 更新者: AD1271

更新日時: 2024-01-08 15:03:32

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

春学期に学んだ基礎に加えて、動詞を中心に紹介する。接辞、接尾辞、命令等を学習し、さらに表現を広げていく。聴き取り能力、単語力、表現力を向上させ、実際に簡単な日常会話の中で使用できるようになり、インドネシア語が正しく話せる・書けることはこの授業の目標である。

最後に、インドネシアのこと(文化、食べ物、観光地など)を調べて決められたテーマに基づき、今まで習った単語や表現を使い、簡単なインドネシア語でプレゼンテーションをしてもらおう。言語を通して、インドネシアについての理解を深めましょう。

授業では、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイングなどを行う。

**科目目的**

- 1) 文の基本構造を理解する。
- 2) 自分の意思を相手に伝えられる。
- 3) 辞書を用いて、文に相応しい意味を判断できる。
- 4) 相手が言ったことを聴き取れ、返事ができる。
- 5) 自分の意見や考え方を言葉にできる。
- 6) 自習の習慣を身につける。

**到達目標**

1. 簡単な日常会話ができる。自分の意志を相手に伝えられる。相手の文章が聞き取れ、それに対して答えることができる。また、自分の意見や考え方が述べられる。
2. レストランなどでの予約、飲み物や食べ物の注文。パンフレットを使って、ホテルや旅行のプランを選ぶ、チケットなどを買うなどのようなロールプレイを行い、様々な単語や表現を身につける。
3. 春学期の授業で学習した名詞、数字、時間、簡単な副詞や形容詞などに加えて、基語動詞、ber-動詞、me-動詞、me-kan動詞、受動態や助動詞などを学習し会話の中で使えるようになる。

**授業計画と内容**

1. イントロダクション、シラバス確認、春学期の学習内容を復習
2. 動詞1 (基語動詞、ber動詞)
3. 動詞2 (meN動詞)
4. 助動詞
5. 受動態 (1人称と2人称)
6. 受動態 (3人称)
7. 中間試験
8. Yang用法 (受動態と能動態)
9. 受動態とYang用法の演習
10. 命令文
11. 動詞3 (meN~kan)
12. 動詞3の練習、最終課題のテーマの説明
13. レビュー
13. 最終課題のフィードバック&ディスカッション
14. 総括 (期末試験)

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

予習・復習時間を確保する。  
予習復習時間とも毎週授業時間と同等の時間が必要となる。  
毎回、小テストまたは作文等宿題の指示を出すので、教員の指示にしたがって、受講後に復習等を行ってください。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	30%	授業期間中に行われる筆記試験
期末試験	40%	学期末に行われる総括
レポート	0%	
平常点	15%	宿題や小テスト
その他	15%	出席率及び最終課題

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート

- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション

実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

教科書:  
著者名/Authors : Florentina Erika  
書名/Title : 『インドネシア語の基礎 BAHASA INDONESIA TINGKAT DASAR』  
出版社・出版年/Publisher, Year : KANISIUS 2021  
ISBN : 978-9792169287

推薦参考書:  
著者名/Authors : 川村よし子、フロレンティナ エリカ  
書名/Title : 『日インドネシア英・インドネシア日英辞典』

出版社・出版年/Publisher.Year : 三修社2017  
ISBN-10 : 4384058780  
ISBN-13 : 978-4384058789

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

---